

町制施行60周年特集

NO.10



町制施行60周年記念にあたって

昭和29年10月17日、町制が施行されました。

戦後のめざましい復興は小さな町にも及び昭和34年の伊勢湾台風を乗り越え、昭和37年には小学校円形校舎が落成、東京オリンピックが開催された昭和39年には役場庁舎も完成しています。以後、幼稚園の開設をはじめ南北保育園の完成、児童館も開設されています。

また浄水場、町道3-3号線、JR関西本線の朝日駅開業など将来を見据えたインフラが次々整備され、公共下水道がほぼ完成する頃には伊勢湾岸自動車道みえ朝日インターの開設、北勢バイパスの一部開通、中部国際空港の開港もあって交通アクセスは万全なものとなりました。

教育・文化を大切にす町民の皆さんに応え、中学校の新設をはじめ、スポーツ施設の充実、図書館・博物館・児童館を含む教育文化施設は町の魅力を発信するにふさわしいものとなっています。

今後は、子育ての政策とお年寄りが元気で暮らしていけるまちづくりが課題です。子育て世代におけるあさひ園の存在、お年寄りの憩いの場としての保健福祉センターの存在は、民間の幼・保施設、特別養護老人ホーム、介護施設とともに今後の課題の一翼を担っていただけるものと確信しています。

平成15年以降、本格的な土地区画整理事業がはじまり、第2次金融ショックもあって大変な時期でしたが、日本一のまちづくりを目指す組合員の皆さんの必死のご努力で、白梅西・向陽台・白梅東の自治区が次々と誕生。平成22年の国勢調査では人口増加率日本一を記録し、平成25年4月8日、遂に人口一万人に到達しました。

このことは、戦前戦後を含め先輩の皆さんが大変なご苦勞の中で朝日町の土台をしっかりと作ってきていただいたお蔭であり、あらためて感謝申し上げます。

平成の大合併の中で迷いもありましたが、町制施行時の町誌に記述の「行政はいつも住民の福祉を念頭に置き、その時々最善の道を歩む」を道標として歩ませていただきました。感謝 感謝。

平成26年10月

朝日町長 田代 兼二郎